

〔海外だより〕

ジュネーブ大学病院留学記

千葉大学大学院医学研究院救急集中治療医学 大 島 拓

はじめに

2014年9月より Geneva University Hospital の Clinical Nutrition Unit (以下 ジュネーブ大学病院臨床栄養部) に研究留学をしておりますので、その概要について紹介します。

ミーティングで意見交換をしています。私は研究テーマに合わせ、集中治療室のミーティングにも毎週水曜日に参加しています。集中治療室と臨床栄養部の連携は強くこれまで多くの共同研究が行われており、通常の臨床でも頻繁に集中治療医から栄養評価や間接熱量測定への依頼があります。

研究室の紹介

ジュネーブ大学病院はスイス・ジュネーブ州の州立病院も兼ねており、同一敷地内に小児、周産期、高齢者向けの医療施設も備えています。臨床栄養部は糖尿病・代謝・内分泌内科の1部門であり、外来診療及び入院患者の栄養相談診療を栄養士と医師が連携して行い、週に2回教授を交えた回診を行っています。指導者の Claude Pichard 教授は豊かな臨床経験を背景に、急性期から慢性期まで幅広い疾患を対象とした栄養療法を専門としています。研究にも力を入れており、様々な診療科と連携して行われている臨床研究や、栄養をテーマとした基礎研究について毎週月曜日の研究

研究内容の紹介

間接熱量測定はエネルギー代謝と酸素代謝の相関関係を利用して、呼吸ガス分析により酸素消費量および二酸化炭素産生量を測定し、その結果から消費エネルギー量を計算する方法です。測定の結果は主に人工栄養法を必要とする症例の栄養処方を目安として用いられます。現在、高精度の間接熱量計の開発を目的として、ジュネーブ大学病院臨床栄養部が中心となりヨーロッパ集中治療医学会並びにヨーロッパ臨床栄養代謝学会の協賛により企画された多施設共同研究が行われており、私はこの研究のコーディネーターとして活動しています。具体的には中央施設のリーダーとして研



写真1 ジュネーブ大学病院

究プロトコルの作成、測定器メーカーや共同研究施設との意見交換などの活動をしてきました。特に研究プロトコルについては、渡航後の研究ミーティングで測定精度の評価方法について問題を指摘され、大幅な見直しが必要となりました。検討の結果、中央施設では質量分析器を用いた分析精度の評価を行い、多施設研究としては他の間接熱量計との比較や様々な症例に対する測定の安定性等を評価する計画とし、100ページ以上にわたる総合プロトコルを書き上げ倫理承認を得ることができました。この間、質量分析器の使用法を習得したり、研究室の同僚を被験者として精度評価法を検討したり、施設毎に異なる環境に合わせて研究を行うための交渉をしたりと、多くの貴重な経験をしました。

医療技術の進歩による治療の高度化・長期化に伴い、治療を支える栄養療法もその重みを増しています。適切な栄養療法を目指すための議論の客観的な基軸として間接熱量測定法を普及させることもプロジェクトの目的であり、間接熱量測定データベースをもとにした研究や、測定の重要性に関する論文の執筆にも取り組んでいます。

ジュネーブでの生活

ジュネーブはレマン湖の西岸にあるスイス第2の都市ですが、周囲をフランス国境で囲まれてお

り最もスイスらしくない街と形容されることもあります。とはいえ市内はヨーロッパ特有の美しい町並みで、旧市街には歴史情緒あふれる建物が立ち並び、湖畔にはジュネーブの象徴である大噴水 (Jet d'Eau) があり、市内の所々に緑あふれる公園があります。また、電車や車に乗って30分程度で美しいスイスの山の自然を楽しむこともできます。

ジュネーブでは住宅難が深刻で、家探しに数か月かかったという話は当たり前のように耳にします。幸い我が家はジュネーブ大学の Welcome Center という外国人研究者を支援する部署の紹介により渡航前から住居を確保することができました。担当の方には保険や銀行の手続き、子供の学校の手続きまでお世話になりました。こうした支援によりスムーズに新生活を始められたことは、大変ありがたいことでした。

また、ジュネーブは国際連合、国際保健機構、赤十字などの国際機関が集まっていることから人口の約6割が外国人で構成され、世界各地から転勤や移民として移り住んだ人達と接する機会があり、これまで漠然としたイメージしかなかったヨーロッパ近隣の国々について実体験に基づく貴重な話を聞くことができました。小学校でも様々な国の子供達同士でお互いの文化や習慣について話し合っているそうです。

家族共々、スイスの美しい自然に加え国際都市特有の貴重な体験をさせていただいています。



写真2 ジュネーブ、レマン湖畔の風景

おわりに

最後になりましたが、この度の留学の機会を与えていただき、支えていただいた織田成人教授、

快く送り出していただいた救急集中治療医学講座の皆様、留学準備に関して様々な助言や支援をいただいた皆様に、心より感謝し御礼申し上げます。
